



「朝日連峰

今回の源流は快晴なり」

釣行日 2024. 5. 3~5

参加者 黒須、内野、伊藤、寺尾
長谷部、三本松、坂井、齊藤
レポート 齊藤

昨年のテン場では山の神の何の逆鱗に触れたのか、真横からの光線銃の攻撃のような稲妻と耳のそばで大太鼓でも叩かれているような雷鳴が襲い、あられじゃなくおかしじゃないの？と言う氷の塊に天幕をバタバタと叩かれ、上流からのゴーと谷底を降りてくる強風に全員でシートを抑えてと恐怖のテン場が何よりの思い出となりました。

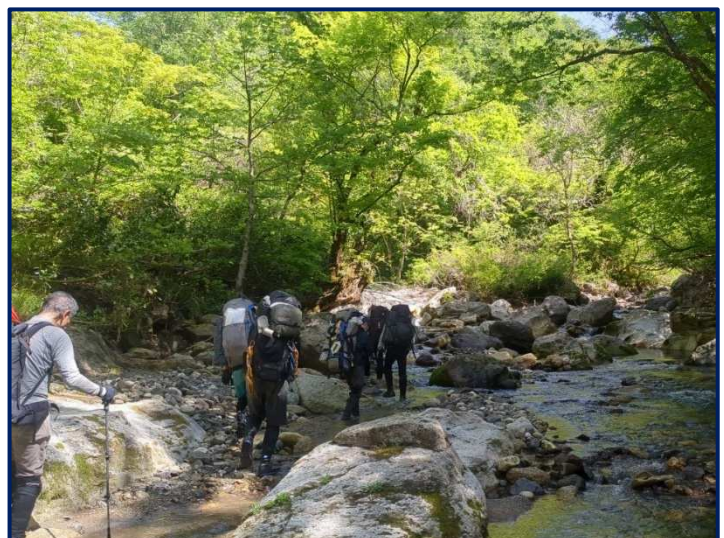
今年は予報では3日間ピーカン、あの恐怖から1年。
山神様へのお神酒を欠かさずに祈った甲斐があったようです。

今回は初参加の伊藤さんが、自宅で拾ってくれると言うことで三本松さんと3人で集合場所へ。
途中で寝てしまったようで目が覚めるともう僅かの場所へ。伊藤さん全部運転させてご免なさい。

車留めには寺尾さんを除き、先着の面々が、既に山神様へのご挨拶を終えて就寝中の様子。
若い時なら「なに寝てんだよ」と叩き起こし、ここで入山祝いと称して盛り上がるころではあるが、今では自力歩行パワーに重大な後遺症が出ることは明白。
残念ながら、おとなしく車中で仮眠。2時間弱ウトウトし尿意と寒さで目が覚めると山並みは薄っすらと明るく、沢山のお楽しみアイテムを仕分けして入山準備に取り掛かる。

2泊にしてはパンパンのザックで雲一つない青空の下を軽快に進む。
最初の歩き出しから小1時間は多少傾斜がきつく、滑り落ちると無料で日本海まで届けていただけそうだが、この季節の冷水は遠慮したい。
頼りなさそうな、谷ウツギやユキツバキの枝を掴みながら慎重に進む。

ほどなくしてほぼ垂直の壁の下降場所へ。
それぞれに重たいザックは命取りになりかねない。



ひとりひとりザイルで落として空身で川床へ。
ザックを降ろし役の坂井くんからは「皆さんの
ザックの重さがわかりました」と。
わたし:「俺のが2番目くらいに重いよな？」
さかい:「ですかね〜？」と。



降りた下は川原でヒルもいないことから朝飯、
中休止。
ここから先はほぼ水平道で以前は大高巻き
をさせられたゴルジュも今回はひざ程度で
そのまま遡行。

歩き出し4時間で最初の目標の二又、ここまで来ればテン場までは3~40分。
時間はたっぷりある、竿を出させろ視線で私をちくちく刺していた方に合わせてのんびりとテン場を目指す。
お魚も型はいまいちとしても何とか大丈夫、山菜も。
今日から3日間の貸し切りの溪での占いは？ 大吉。

最後の大岩を超えればロケーションも抜群の100人でも泊まれるテン場はすぐそこ。
いつもの場所に青シートの天幕を2張り、寒さ対策に周囲を壁で考えたが、こんないい天気なら開放的で景色も眺められるからとこのままに。



お宿が完成しました。ぱっちりよ。

快適環境整備その2は全員で薪集め、今年は浅瀬で引っ掛かっている薪もいつもより豊富で2日ならもう充分でしょと言う声の中、「いや、ある間はなんぼでも燃やす、アルアイダ〇〇と言われている氏がいる限り、これで十分なんてことはない」。例えて言うなら、薪を段重ねして盛大な火炎を上げるインド人の火葬のごとく。

いよいよ、その3はビール冷やしなのにその1の時に既に冷やしている者がいて早速、乾杯。手際が良いと褒めるべきか、順番違うだろうとたしなめるべきかどっちだ？ と言ったら前者だな ありがとうご相伴にあずかる。



途中で採ったウルイをタラコマヨスパと和えて虫抑え&つまみに、でいい塩梅のほろ酔い加減。根が生えかけ寸前で腰を上げ、ここで飲んだくれていてもせっかく来た甲斐がないのでワサビ畑に行って今日仕込んで置けば明日にはつんとくる激うまをつまみにと。

ここからワサビ畑までは1時間程度、しかし4時間強歩いてテン場で体を休めたものの道が年々荒れてきていることもあり、中々どうして思うように足が出ない。



前期高齢者の身分としては仕方がないが、実は一番最初にここに来た時は 10 年ほど前で今より少し下のテン場で余裕で 2.5 時間。と言うことは 1 年で 9 分ずつ遅れて行く計算。脱税など断じてしていないが、年貢の納入期限も近付いているかも？と痛感。

今年初参加のメンバーもいるのでここから僅かのマタギの岩屋を見学し、テン場へ戻る。日没まではまだまだというのに暑いほどの陽気の中、それぞれが「飲んで食ってバカ話」の無限ループが繰り返される。



ウルの食感と生ハムの塩っ気がなんと



2 日目の晩はいつも好評の岩魚ソースカツ丼も

今宵の宴会料理は既に花が咲いてしまったフキノトウの茎を刻んでひき肉と炒めた「そぼろバツケ」、さっと湯がいたウルイを数切れ生ハムで巻いた「ウルサライト(今回は 8 人分なのでセブンにはなりませんでした)」、その他身欠きニシンとへそダイコン(しみ大根を作る時に棒を通す穴ができるのでへそと言います)を入れた筑前煮、砂肝&ニラ炒め。

体力が有り余るメンバーは焚火に車座になり遅くまであーだこーだとやっていたようだが、さすがに今日は疲れが飲みにも勝り、撃沈。一度も目覚めることなく熟睡&爆睡し、アカショウビンの鳴き声で目が覚める。残り火に薪を足し、コクを加えたコーヒーをやれば胃袋が程良い心地。

さあ、今日は釣りがメインの中日、相変わらず天気も最高。

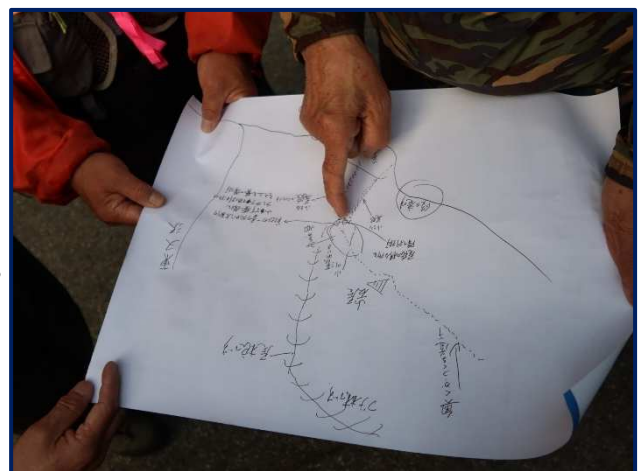
4 人ずつ分かれて自分は下流の東俣へ。上流組は昨日の岩屋の先から本流へ下降。

それぞれに昼飯のラーメンと餅、ギョニソを持ってテン場を後に。

東俣は数年前に 1 度行ったことがあり、水枯れまで魚がいて型は大きくないものの飽きるほど釣れた思い出がある。さて今回はどうだろう。

出合の右岸に付いた杣道を少し行き、東俣へ降りる。落ち込みが適度に続き、飽きさせない。

しかし、一昨年の水害のせいで溪相も変わり、大木が沢を跨いで倒れているところが至る所にあり、乗り越しに苦労させられる。



今では廃道同然のマタギ道の地図を頼りに作戦会議

岩魚の出もそのせいか前回には及ばず、ポイント毎とは行かないようだ。

しかし、内野さんはフライ、坂井くんはルアー、私は餌、伊藤さんは山菜採り？とそれぞれのスタイルでそこそこは釣れているよう。

昼には少し早いもののラーメンタイムで大休止。まだまだ溪は奥深く、釣り上がるもどうも前回の溪のイメージと少し違う。

終わり近くになると溪が開けて平瀬になるはずなのにそのシーンに一向にならず、兩岸が狭まったゴルジュの中に苔の生えていない動いたばかりの大きな石がごろごろと転がる光景が続く。

地図にない右から入る支流を見送ると水量は7ほどになり、もういいかなと。

みんなも十分満足したようだし、戻って一杯やろう。



溪流釣り初心者之三ちゃんにも釣れるかな～ → 見事釣れました 腕？場所？ 三本松：「腕ですよ」



長谷部くんは良さげなポイントで



伊藤さんは山菜担当？

途中の旧ゼンマイ小屋跡でワラビを一掴み採り、1時間強でテン場へ到着。上流組は既に帰着、着替えを済ませ一杯やっている。初参加の長谷部君、三ちゃんも良い釣りができたよう。

2日目の宴会料理はウルのマヨ&シーチキン和え、シャキシャキのウルイを合わせた生姜焼き、岩魚のソースカツ丼。

酒も十分あり満天の星の下、大盛り上がり。アルアイダ氏は予想通り、片っ端から薪をくべてあーでもないこーでもない。



飽きもせず、これでもか！と明るい内から暗くなるまで宴は続きます
長谷部くんは下界に残した愛する人に思いを馳せているようです

黒須くんはアルアイダ氏の容赦ない口撃について堪忍袋に穴が開いたようで寝場所に退避。その後も大声であく抜きして川に置いてあるワラビを持ってこいだとか「ワラビうめー」だとか申されておりましたが、私はいつの間にか騒音さえ耳に入らなくなり、今晚も撃沈。ボクシングではノーモーションのパンチは防御が難しいと言われているが、あんな大きなモーションでも避けられないパンチを持つアルアイダ氏はおそるべし。



「俺っちをなめんじゃねーぞ」と鋭い目線で寺尾氏

3日目は名残惜しいが、下界の現実に身を委ねねばならない日。明日も連休最終日で休日のため多少の気持ちの余裕があるが、関東からのメンバーは連休渋滞を考えると大変そう。12時半には車止め帰還の目標で予定通り9時前にテン場撤収。昼の弁当をこさえ、ごみの始末、アルミの燃えカス回収などなど来年も気持ち良く利用させていただくべく、入念に。全員で記念撮影と再訪を誓い、山神様へ手を合わせての感謝で源流開幕第一弾、好評、大盛況のうちに無事終了です。

最後に。

わが会に興味がある方、入会してこんなところで一緒に遊びませんか？色々、事情が重なり、ここへはあと何年行けるかわかりません。理由は詳しくお教えできませんが、その手段もごく限られています。私の年齢からしてもご案内できるのもそう長くはありません。今は信頼できる会の仲間たちと年に1回訪ねるのを楽しみにしていますが、入会されてそういう関係が築けたならば是非、ご一緒に見ませんか？